

クラシックカーイベントへの参加動機について —ヴェブレンの『有閑階級の理論』を手がかりに—

○仲 真衣子（東海大学大学院生） 西野 仁（東海大学）

はじめに

近年、健康の維持・増進などを目的にスポーツが注目されており、誰もが参加できるスポーツイベントや初心者教室などが開かれ、さまざまなスポーツを気軽に行えるようになってきた。しかし、中には馬術やヨットなど、そのスポーツを行うために多くの金や時間や手間が必要なものもある。

クラシックカーも同様に、クラシックカーを購入し、動くように修理し、車検をとり、ガレージを確保し、維持していくことは決して安価に短時間にできることではない。さらにイベントに参加するとなれば参加費、宿泊費、車両運搬費などが必要となる。ただ車を走らせたいだけならば、必ずしもイベントに参加する必要はないはずである。中にはイタリアなど海外で行われるイベントに参加する人さえいる。クラシックカーを所有する人々は、なぜお金をかけてこのようなクラシックカーイベントに参加するのだろうか。

そこで本研究では、クラシックカー所有者がクラシックカーイベントに参加する動機などを、ヴェブレンの『有閑階級の理論』を手がかりに、考察することを目的とする。

クラシックカーを所有する理由や、クラシックカーイベントに参加する動機は、“自分の財力を他の人にどのように見せつけるか”ということの一つの表れだと考える。それは、『有閑階級の理論』に書かれている、「conspicuous consumption（衒示的消費）」（注）や「conspicuous leisure（衒示的閑暇）」などに通ずるのではないだろうか。彼らがクラシックカーにこだわる理由は、「美の名のもとにおおわれている高価という感覚の満足感⁽¹⁾」や、「金がかかった不細工な品物もっている固有の優秀さ⁽²⁾」を得ることであり、クラシックカーを自分の財力の証拠として見せびらかすことによって、「ゆきずりの観察者に印象をあたえ、かれらからみられて自己満足を感じる⁽³⁾」ことができるからだと考える。また、クラシックカーを所有している人たちは金銭的にはもちろんだが、時間的にも余裕のある人が多いだろう。

（注）「conspicuous consumption（衒示的消費）」

ランダムハウス英和大辞典によると、「conspicuous consumption：見栄消費、誇示的（顕示的）消費」であった。“衒示的”という言葉は、国語辞典や漢和辞典、英和辞典など、調べた範囲では見つけることができなかったが、本研究では参考にした小原の訳に従って「conspicuous consumption（衒示的消費）」という表現を用いた。

研究目的

本研究の目的は、クラシックカー所有者がクラシックカーを所有する理由や、クラシックカーイベントに参加する動機や目的を、『有閑階級の理論』を手がかりに考察することである。

研究方法

1. 調査方法

あらかじめ明らかにしたい質問項目を用意し、半構成的面接法によりインタビュー調査を行った。

2. 調査時期

調査は2004年8月から9月にかけて行った。

3.調査協力者

協力者はクラシックカーを所有し、クラシックカーイベントに参加経験のある以下の3名である。

1) Aさん

50歳代・男性。医師。クラシックカー所有歴、約25年。医師会誌などにクラシックカーについての記事を投稿している。プガッティ タイプ13 プレシア（1922年型）をはじめ、クラシックカーを5台所有。

2) Bさん

70歳代・男性。自動車ジャーナリストであり、自動車史研究者。クラシックカー所有歴、約50年。プガッティ タイプ23 プレシア モディフィエ（1926年型）をはじめ、クラシックカーを5台所有。

3) Cさん

40歳代・男性。歯科医師。クラシックカー所有歴、約20年。イタリアの小メーカー「スタンゲリーニ」の世界的権威で、スタンゲリーニ 508 スポーツ（1946年型）をはじめ、クラシックカーを4台所有。

4.主な質問項目

主な質問項目は「クラシックカーに魅かれたきっかけ」、「クラシックカーの魅力や印象に残っていること」、「クラシックカーイベントへ参加したきっかけや動機、感想」などについてであった。

結果

1.Aさん

1) クラシックカーに魅かれたきっかけ

車が好きで、小学生のころ（1950年代）に車の雑誌に連載されていたクラシックカーに関する記事を読んで夢中になった。それと、子供のころに憧れていた車に今なら乗ることができるから。

2) クラシックカーの魅力や印象に残っていること

走らせること自体が楽しいし、故障は当たり前だから常に問題解決を迫られる。中には10年以上修理をしていた車もある。でもそれが解決した時の喜びはひとしおである。そして同好者との交流がある。古い車との出会いは人との出会いなのだと思う。

3) クラシックカーイベントに参加したきっかけや動機、感想

車を持ったら走らせてみたくなる。日本のラリーやレースにも参加したし、最近は海外のイベントにも参加している。日本のイベントはもうあまりおもしろくない。イタリアのイベントに参加したとき、道端で故障を直していたら、あつという間に人が集まってきて、いろいろと助けてくれた。日本では考えられないことだ。全く興味のない人が見てもわからないだろうし。

2.Bさん

1) クラシックカーに魅かれたきっかけ

もともと車が好きだった。それに一般的には1970年代以前の車をクラシックカーとっているけれど、私は特にヴィンテージカー（1919年～1930年に作られた車）に関心がある。

2) クラシックカーの魅力や印象に残っていること

1台1台が个性的で特徴的なこと。金額のことを考えずに、金属などの材質もすごくよいものできているから、直せば今でも動く。走ることや直すことも楽しいけど、車を介した人間関係が一

番大事。世界中に同好の士がいるから、いろいろな人たちと集まって話をするのが何よりも楽しい。

3) クラシックカーイベントに参加したきっかけや動機、感想

イベントはラリーやレースにでたり、自分たちで川原にコースを作ってジムカーナをやったりした。海外のイベントにも行ったけど、一番よかったのがイタリアのブガッティだけのイベント。それは速さを競うわけではなく、ただみんなで目的地まで走るだけだった。車は外で走ることができるから、みんなに見せられるし、見てもらえるというのはいい。

3.Cさん

1) クラシックカーに魅かれたきっかけ

もともと車やバイク、SLなどの機械や乗り物が好きだった。興味を持ったきっかけは「みため」と「音」がよかったことと、子供のころ（1960年代）に走っていた車への憧れかな。

2) クラシックカーの魅力や印象に残っていること

1人のメカニックがレースに出るために考えて作っているから個性的になるし、いろいろな車がある。手作りのアルミボディとか、イタリア人特有の美的感覚とか、個体としての楽しさとかを気に入っている。クラシックカーを持っていることも大切だし、走らせることも楽しいけど、車を通じてできた友人が一番大切。スタンゲリーニファミリー（所有する車を作った人の子孫の人たち）と仲良くしてもらっていることはすごく嬉しい。

3) クラシックカーイベントに参加したきっかけや動機、感想

もともとはレースに関心があった。それからいろいろなイベントに出たけど、印象深いのはイタリアの『ミッレミア』というイベント。日本では考えられない過酷さだけど、それ以上の感動がある。日本のイベントはたくさんの方が手をふってくれるのは嬉しいけど、恥ずかしさが一番にきてしまう。都内を走っていてすれ違う人に笑われたこともある。でもこの車を見る人の目は暖かいような感じかな。イベントでは興味だけで話しかけてくる人にはまじめに答えられないこともある。

考察

1. クラシックカーを好む理由について

3名とも自分が生まれる以前の車を所有しており、「値段を考えずに作られていたころの車を所有すること」に憧れがあると考えられる。彼らがクラシックカーを好む理由として、「金がかかった不細工な品物がもっている固有の優秀さ⁽¹⁾」に対する愛好や、「古典主義もしくは古きものにたいする尊重⁽¹⁾」が挙げられる。

また、BさんとCさんは1台1台の構造やデザインが個性的であり、特徴的であることを、クラシックカーの魅力としてあげている。特にBさんが「金属などの材質もすごくよいものでできている」ことにこだわる理由や、Cさんが「手作りのアルミボディ」に惹かれる理由は、材料や工程に金や時間がかかっていることによって、「美の名のもとにおおわれている高価という感覚の満足感⁽¹⁾」を得られるからであろう。

2. 人との出会いと、人の視線に対する意識について

3名ともクラシックカーを持っていることの最大の魅力としてあげたことは、クラシックカーを介した「人との出会い」である。それは、クラシックカーの価値をわかりあえる、同好の士との出会いによって得られる認知や評価に意味があるものとする。『有閑階級の理論』では、「本質的な意味を

持つものは、かれ自身の高い階級の仲間の、洗練された感覚によってあたえられる、いっそう名誉ある尊敬だけである⁽¹⁾」という記述がある。

また、3名とも日本国内外のさまざまなクラシックカーイベントへの参加経験があり、国内のイベントよりもイタリアなど海外のイベントにおもしろさを感じている。特に、日本よりもクラシックカーへの理解が深く、関心が高いことに魅力を感じているようだ。少しでもクラシックカーに理解や関心のある人に見てもらいたいという点も、同好の士との出会いに魅力を感じることに近いものであると考えられる。また、Aさんの「全く興味のない人に見てもわからないだろう」という発言や、Cさんの「興味だけで話しかけてくる人にはまじめに答えないこともある」という発言からも、「価値のわかる人にわかってほしい」という考え方を持っている印象を受ける。

その一方で、Bさんの「みんなに見せられるし、見てもらえる」という発言や、Cさんの「都内を走っていてすれ違う人に笑われたこともある。でもこの車を見る人の目は暖かいような感じかな」という発言からは、道行く人に見てもらいたいという気持ちや、人々の視線を気にしていることが感じられる。「金銭的な地位を、あらゆる観察者にたいして、一目で示す⁽¹⁾」ことができるクラシックカーに乗ることによって、「ゆきずりの観察者に印象をあたえ、かれらからみられて自己満足を感じず⁽¹⁾」こともあるようだ。

3.時間的な余裕について

インタビューを通して3名とも自分の所有するクラシックカーをはじめ、車全般についての知識をたくさん持っていることを感じた。また、AさんとBさんは英語、Cさんはイタリア語でのコミュニケーションが可能であり、海外の仲間とも情報交換を行っているようであった。国内だけでなく海外へも目を向けて知識を深めているという行為は、『有閑階級の理論』にある「ひとからばかにされないために、趣味を涵養することもしなければならない⁽¹⁾」という記述につながるものと考えられる。それは、趣味に関する知識を増やすことに費やせる時間的な余裕があるということである。また、海外のイベントに参加したり、休日に車を走らせたりする時間もある。それは、「conspicuous leisure (衛示的閑暇)」と考えられる。

まとめ

クラシックカーを所有する理由や、クラシックカーイベントに参加する動機や目的は、ヴェブレンの『有閑階級の理論』を手がかりに、以下のように考えられる。

- 1.クラシックカーを所有する人たちは、手づくりという、時間も労力も必要とする工程で作られ、材料にも高価な金属が使われている、クラシックカーを所有することで「美の名のもとにおおわれている高価という感覚の満足感⁽¹⁾」を得ているだろう。
- 2.クラシックカーを見せびらかすことによって、同好の士など価値のわかる人に認めてもらいたいという気持ちと同時に、道ですれ違う人たちに知られて自己満足を感じたいという気持ちがある。
- 3.彼らにはクラシックカーを購入、維持できる金銭的余裕だけでなく、クラシックカーについての知識を得たり、海外のイベントに出かけたりする時間的余裕もある。

引用・参考文献

(1) ヴェブレン (小原敬士訳) 『有閑階級の理論』、岩波書店、1961

(2) 小学館ランダムハウス英和大辞典第2版編集委員会『ランダムハウス英和大辞典』、小学館、1994